

工

学部オリエンテーション・キャンプは、四月三十日(土)、五月一日(日)の両日に、新入生四八三名、学生役員四十五名、フェロー二十九名、教職員四十八名(両日二十一名、後半一日二十七名)が参加して、昨年と同様 野呂山で実施された。昨年度の反省から、①時期を三週間以上早める、②全員を一度に輸送し、待ち時間を大幅に減らす、③オリエンテーション企画の中、類別オリエンテーションの時間を倍の一時間に延長する、等の改善を行って実施された。

天候に恵まれた初日は、午前七時半に、新入生とフェローが、それぞれ班ごとに趣向を凝らした手作りの奇抜な衣装に身を包み、顔には独特なメイクアップを施して工学部に集合した。点呼で人数を確認した後、八時半には十二台のバスで出発した。十時過ぎに現地に到着し、十時半、開村式が氷池駐車場で行われ開村宣言。総局長の挨拶の後、工学部長から激励の言葉と、全ての出会いを大切に良い仲間を作るように、という主旨のお話があった。

諸注意の後 キャンプ場に移動し、まず常設テントの設営に取り掛かった。今年は時期を早めたためキャンプ場も開村したばかりで、常設テントもまだ設営されておらず、テント作りの第一歩から始めることになったのである。

しかし、昼食を取りながらの共同作業で難なくテントが出来上り、荷物を運び込み寝場所を確保した後、夕食の

ドッジボール大会



炊事場で



キャンプファイヤー



工学部

オリエンテーション キャンプ

始末記

工学部学生委員会
委員長

小倉文夫

準備に取り掛かった。夕食は、各班ごとのアイデアを競い、全員が作り、楽しんだ。多くの教職員も、各グループの料理の味見をさせてもらう機会を持ち楽しんだ。午後七時から三箇所に分かれてキャンプファイヤーが始まり、十時過ぎまで大いに盛り上がった。

翌日も良い天気には恵まれた。各班ごとに朝食の後、炊事後の後かたづけをし、「来た時よりも美しく」を合言葉に、全員でキャンプ場の清掃 (Green Clean Campaign) を行った。

高原ロτζジ横のグラウンドに移動した十二時から、当日参加の教官も加わりオリエンテーション企画が開かれた。最初に学生委員長から、オリエンテーション企画の主旨と進め方について簡単な説明があった後、各類に分かれそれぞれやり方で約一時間、ガイダンスや小グループでの教官と学生諸君との懇談等が行われた。

十三時からは、フェローの企画した全員参加のドッジボール大会に移った。ここでは新入生、フェロー、教官が二

十九の混成チームを作り、八つのリーグに分かれてリーグ戦が行われた。試合中はもうもうたる砂埃りの中、全員が時の経つのを忘れて、プレイに、声援に、また観戦に、熱中し大いに盛り上がった。最後に各リーグ戦の優勝チームの表彰が行われ、十五時にはオリエンテーション企画は終了した。

十五時三十分から、氷池駐車場上の広場で点呼の後、開村式が開かれ、総局長と学部長の挨拶があり無事に終了した。諸注意があった後、順次再び十二台のバスに分乗して野呂山を後にした。今回は天候にも恵まれ、しかも二回目であったため、昨年の経験を十分生かすことができた。しかし、輸送の問題などかなりの改善も認められたが、教官の参加のあり方など、さらに検討を要する問題も残されている。参加者全員については行っていないが、ある類で新入生に対して行ったアンケートの結果では、オリエンテーション・キャンプは意義があり来年度以降も続けるべきである、というのが昨年同様多数意見であった。

最後に、事務長をはじめとする事務部の職員の皆さん、総局長を頂点とする学生役員・フェローの皆さん、お忙しいなか時間を作って参加してくださった教官の皆さん、その他多くの関係者の並々ならぬご尽力により大過なく無事終了したことに対し、心からお礼を申し上げます。

(おぐら・ふみお)